仙台市立郡山中学校「補足資料」

安全・安心な地域づくりに資する、中学生が主導する防災教育と地域防災訓練

１、はじめに

本校の開校は昭和３６年で、今年で創立５４年になる。本校は、ＪＲ東北本線で仙台駅から上り方面に一駅の長町駅が学校の最寄り駅となり、駅から徒歩で１５分ほどに位置している。学区は仙台の副都心である長町駅の東部地域にあり、現在、大規模な再開発が行われ、商業施設や高層マンションが建設されている。一方で、長町駅の東部は、約６０ｈａにわたる広大な遺跡であり、平成１８年に国史跡に指定されている。校舎一階の一部には、遺跡保存エリアがあり、７世紀中頃の遺跡の上に立つ学校として、全国的にも珍しい学校である。そして、大震災後には再開発地域の一部が２４０世帯の仮設住宅になっている。また、今年度には災害公営ビルも２棟が建設された。

本校学区は、東北新幹線とＪＲ東北本線が併走し、一級河川の広瀬川と名取川に囲まれた地域である。さらには、学区の中心部を貫く国道４号バイパスや、高速道路の東北道と仙台東部道路を結ぶ、仙台南部道路の長町インターもあり、交通と河川の要所になっている。

東日本大震災では震度６弱の揺れとなり、職員室では先生方が机の下で落下物を避け、生徒は揺れが収まるまで身を守り、教員の指示により日頃の訓練成果を生かして、校庭避難を全員無事に行うことができた。的確な判断と指示、そして迅速な避難行動は、常日頃からの心構えと、真剣で冷静な訓練を怠らずに行っているからこそ、実行可能な行動であることを、改めて知り、痛感している。　【以下の写真は、震災当日の校庭避難、避難所になった体育館の夜とその翌朝】

本校の体育館には、住宅被害を受けた近隣住民が押し寄せ、さらには沿岸部で津波被害を受けた方々も身を寄せた。助けを求めて多くの人々が、学校という避難所を頼りに集まり、あっという間に体育館が避難者で一杯になった。寒さと停電、大震災の余震の恐怖、先の見えない不安と空腹、体調も崩す方々がいる中で、見ず知らずの方々と身を寄せ合った。この境遇を共有する中から、生きる励みと意欲が、沸き上がり、勇気づけられる思いが、共に生み出され、一人でないことに絆を覚えた、と当時の避難所生活を振り返る人々が、中学生に、今も語り続けてくる。

２、津波被災地への支援活動

（１）震災後の活動

生徒たちは、自分たちの生活が元に戻ってきた頃、津波被害で大変な生活が続いている地域の人々に、中学生でも出来る支援を行うことにした。募金も考えたが、被災者に今必要な物と事は、お金を支援することではなく、生きるために必要不可欠な食べ物と生活必需品であること知り、炊き出しの下ごしらえをして、被災地で温かい食べ物を食べていただいた。そして、いくらあってもすぐ足りなくなる物を、生活に必要不可欠な物を、生徒たちの手で車に積み込み、教員と保護者が運んだ。

（２）津波被災地への継続支援

東日本大震災で未曾有の被害を受けた女川町は、宮城県北部の沿岸地帯にあり、地震の揺れと地盤沈下、そして大津波により、町は壊滅的な被害を受けた。震災後、仙台市内の中学校、高校、大学の教員と生徒・学生、そして PTA が、「女川を元気にする会」を結成し、支援と交流を行っています。本校から生徒会役員７人と先生２人、PTA 会長の計１０人が参加し、今年は仙台市内の中学校３校、高校、大学から総勢・約１２０人が視察・交流活動を行った。

【慰霊碑への献花と祈り】　【貼り絵を制作・贈呈】　【合唱、空手、ダンス等を披露】

３、地域への奉仕活動

本校生徒は、町内会や市民センターが開催する行事を積極的に協力支援したり、部活動単位で様々な開放講座を開催したりするなど、地域への奉仕活動を行っている。

【町内会の地域一斉清掃】　【地域防災訓練の支援】　【祭で吹奏楽部が演奏】

【吹奏楽部が住民向け演奏会開催】【科学部が小学生向け実験講座開催】【家庭部が幼児向け遊び講座】

４、中学生が主導する地域防災訓練と防災教育

（１）防災教育のねらい

本校は、仙台の副都心再開発により大規模商業施設が開店したり、高層マンションが建設中であったり、地域の生活環境が激変しつつある。東日本大震災の教訓から、人の命を助け、守るためには、自助と共助が、いかに大切かを、全ての住民が痛感している。しかし、大規模都市開や地域の核家族化・高齢化、そして新たな住民との関わりなど、地域課題が表出している。支え合い、助け合い、共に地域で生活する人々が、共助で示された絆の大切さを持ち続けることが、なおさら懸念される。

このため、学校とその中学生が地域住民を巻き込む防災教育学習を創意・工夫して行い、関わりとつながりを継続・拡充することが、持続可能な地域社会づくりにおいて必要かつ重要であると考える。

（２）今年度の教育計画

今年度の防災教育の計画概要は、①震災と教訓を学ぶ、②復興を知る、支援することを実践のねらいとして、８月上旬に生徒会が被災地・女川を視察し、復興支援と交流

防災教育のねらい

副都心再開発と核家族化が進み、中学生と住民の絆が懸念される地域において、地域防災力を高める。
- ○災害時の自助・共助の方法を学ぶ
- ○防災意識と災害対策・対応力を高める
- ○防災・減災行動と的確な判断能力を身に付ける

中学生が核となる防災学習活動に取り組み
地域住民を巻き込み、
学校・生徒と住民の協働体制を創り上げる

↓

「関わり」・「つながり」を継続・拡充させて、
持続可能な地域社会づくりとその担い手になることを目指す。

実践のねらい	教　育　実　践	時　期
①震災と教訓を学ぶ ②復興を知る、支援する	・代表生徒が被災地・女川視察、復興支援と交流、視察報告 ・全町内会と小中学生の地域清掃	８月上旬 ８月下旬
③防災・減災の知識、スキル、行動を習得する	・学区内の小学校３校の防災訓練を支援 ・中学生が主導する地域防災訓練（避難所設営・運営、避難誘導など）	１０月 １１月 11／21
④学習成果を発信する	東北ユネスコスクール等で発表 各種大会にて実践発表、資料公表	１０月 １２月
⑤学習実践を評価する 自己・外部評価、第三者評価	・PDCAによる自己・外部評価 ・防災教育チャレンジプラン等で報告と講評	１月 ２月

を行い、視察報告をする。また、至る所に震災の爪痕が残る本校学区において、地域住民と小中学生が地域清掃活動を共にすることを通じて、大震災の時の共助を忘れず、復興・復旧状況も確認する。③の防災・減災の知識、スキル、行動を習得するため、学区内の３つの小学校の防災訓練を中学生が支援すると共に、郡山中学校では生徒が主導して地域防災訓練を行う。④の学習成果を発信するため、ユネスコスクール東北大会で生徒会が成果発表をしたり、防災教育チャレンジプランにて本校の防災教育を実践発表したり、各種の発表会にて学習成果を発信する。⑤として、学習内容と方法そして成果や課題などについて、自己評価、外部評価を生徒と教員が協働して実施する。

（３）中学生が主導する地域防災訓練

郡山中学校区の小学校２校と中学校、町内会、消防団・消防署、ＰＴＡ等が協働して地域合同防災訓練を以下の概要で行っている。中学生は実施概要に示したように、各活動を主導・支援して参加している

○実施日時　平成２７年１１月２１日（土）８：１５～１５：３０

○実施場所　仙台市立郡山中学校、東長町小学校、郡山小学校

○実施形態　授業日として全校児童生徒が参加
保護者や地域住民の方々も、午前の防災訓練と、午後に開催する防災教育シンポジウムに参加

○実施概要　各小中学校の避難所では以下の概要にて、保護者や住民も避難者として受け入れます。

時刻	所属／内容	郡山中学校の生徒		
		東長町小学校区等の生徒	八本松小学校区等の生徒	郡山小学校区等の生徒
8:15	一時避難所から避難場所へ	生徒が各地の一時避難所に集合。その後、各学校へ集団避難・移動		
8:30		東長町小学校	郡山中学校	郡山小学校
9:15	生徒の活動支援の内容 ※生徒は概ねA～F等の班を分担	A 避難所の開設と運営：避難所での活動 ・受付や椅子・机、掲示物等の設置 ・避難所内外での誘導（トイレ、保健室、避難所等へ誘導） ・受付活動と避難者の問合せ相談 B 炊き出し調理と配給：炊き出しの活動 C 救急救護の活動支援：避難所内で健康調査の巡回 D 取材活動：訓練の様子を撮影、避難者や支援者への取材 E 災害対策本部の支援活動：指示伝達や避難所状況の情報収集等 F その他：各避難所にて必要とされる独自の活動を支援 また、Ｆ班員は中学校まで集団避難の誘導を担当		①衛生班：仮設トイレ等の組立･解体【中３年】 ②救護班:応急処置訓練（消防署員）【中１年】 ③食料物資班：防災物資の確認等【中２年】 ④情報広報班:防災授業の取材・レポート作成 【雨天、郡中へ】 雨天時は郡中に移動
11:00	集団避難・訓練	中学生と一部住民：東長町小学校と郡山小学校から郡山中学校へ集団避難		
11:10	３コースでの防災学習	郡中・郡小・東長小に避難した生徒が３グループに分かれて、コース別の防災学習 学習①：備蓄物資見学　・・・担当生徒が郡山中に備蓄されている食材や物資を展示し、仮設トイレなどを組み立て、担当生徒が説明 学習②：消防署･消防団の講話・・消防団と消防署の職員が、ポンプ車や消防備品等を展示し、仕事内容を説明 学習③：防災学習発表・・・生徒会が本校の防災学習の成果をプレゼン発表		
11:40	○炊き出し調理と試食	○郡山中に避難する一部の生徒が、調理を担当 ○試食は全校生徒(各学年棟・1F で配給)、教職員と支援の保護者に配給（被服室）		

13:30	防災教育シンポジウム ※司会・進行等の運営は生徒会	① 開会：生徒会・副会長　② 挨拶と講師紹介　校長 ③ 講演：演題「水害・異常気象 のメカニズムと、その予知研究の現状と未来」 講師　東北大学災害科学国際研究所助教授　呉　修一　氏 ④ Ｃ班の報告：３つの避難所の取材報告 ⑤ 講評：宮城教育大学・教育復興支援センター特任教授　伊藤　芳郎　氏 ⑥ 花束贈呈：健全育成委員会　⑦ 御礼の言葉と閉会挨拶：生徒会・会長 ⑧ 閉会：生徒会・副会長　**※ アンケート調査（生徒と住民等）協力願い**
15:30	後片付け	全校生徒で協力して片付け
16:00		全校生徒で帰りの会、完全下校　１６：３０

A　避難所の開設と運営

B　炊き出し調理と配給（カレーと豚汁を調理して配給）

炊き出しは、生徒３６名がカレーを調理し、保護者３２名が豚汁を調理した。
食数は、生徒の約６００名分と、教職員と保護者の約１００人分の計７００食を提供。

E　災害対策本部の支援活動

C　救急救護の活動支援

D　取材活動（訓練の様子を撮影、避難者や支援者への取材、シンポジウムで取材報告、取材結果の模造紙制作）

F　備蓄物資の展示と説明

①集団避難と誘導

②コース学習

【消防団と消防署の講話】　　【生徒会が防災学習の成果報告、被災地の女川の視察支援の報告】

【地域防災訓練の参加者数】

小学生・職員：東長町小学校６７３人・２８人、郡山小学校２３２人・１７人

中学生・職員：郡山中学校５９７人・４２人　　保護者：４１人

避難者役の地域住民：１５３人　　〈　**総参加者数１，７８３人**　〉

③大学教官の講演と質疑

④各班の活動成果の報告

⑤大学教官による訓練の講評

（４）アンケート調査結果と分析

中学生が主導する地域防災訓練が終了後、中学生と地域住民を対象に、１７の質問項目からなる４件尺度法（選択肢：大いに、まあまあ、あまり、ぜんぜん）によるアンケート調査を行った。以下に示す調査結果は、その抜粋である。

NO	質　問　内　容	学年 住民	選　択　肢			
			大いに	まあまあ	あまり	ぜんぜん
1	地域だけで行う防災訓練とくらべて、学校と地域が一緒になって防災訓練を行うことは必要である。	１年	72.5	22.5	3.9	0.6
		２年	77.5	20.1	1.2	0.6
		３年	80.4	17.6	1.5	0
		住民	86.4	13.6	0	0
2	中学生が中心になって地域防災訓練を実施することにより、中学生は地域防災に貢献できると思う。	１年	62.1	32.8	5.1	0
		２年	78.2	18.2	1.8	0.6
		３年	78.6	18.4	1.5	0.5
		住民	81.8	18.2	0	0
7	地域や学校が一緒になって、様々な活動や取組を実施することは、地域の活性化につながると感じる。	１年	61.6	32.2	5.6	0.6
		２年	64.9	33.9	0.6	0.6
		３年	67.8	27.1	4.5	0.5
		住民	81.8	18.2	0	0
8	本日のような行事は、地域の皆さんと中学生の関わりが深まると感じる。	１年	53.4	36.9	8.5	1.1
		２年	58.3	35.7	4.8	1.2
		３年	64.8	27.1	6.5	1.5
		住民	67.4	27.9	4.7	0

9	地域防災訓練などの防災教育は、大切だと感じる。	1年	72.0	22.9	4.6	0.6
		2年	78.4	19.8	1.8	0
		3年	83.9	14.6	1.5	0
		住民	90.9	9.1	0	0
11	自分の力が人のために役になって、うれしいと思う。	1年	58.2	33.9	6.8	1.1
		2年	56.5	36.9	4.2	2.4
		3年	69.3	25.6	4.0	1.0
12	これからも、人のために役に立ちたいと思う。	1年	68.4	26.0	5.1	0.6
		2年	69.0	27.4	2.4	1.2
		3年	76.3	21.2	1.5	1.0
13	人が人を助けることは、大切なことだと感じた。	1年	79.7	15.8	4.5	0
		2年	83.3	16.1	0.6	0
		3年	84.3	14.1	1.0	0.5
14	自分は人を助けたり、人と支え合ったりしていきたいと思う。	1年	72.3	23.2	4.5	0
		2年	79.6	19.8	0.6	0
		3年	79.9	17.6	2.0	0.5
15	自分にできることを探し続け、チャレンジしたいと思う。	1年	57.4	35.2	7.4	0
		2年	63.7	32.7	3.0	0.6
		3年	65.3	29.1	5.0	0.5
16	どんな苦難にも立ち向かい、苦難を乗り越える努力をしていきたい。	1年	59.3	31.6	7.3	1.7
		2年	60.7	35.1	2.4	1.8
		3年	68.8	28.6	2.0	0.5
17	自分の夢や希望を持ち続け、頑張りたいと思う。	1年	71.0	23.3	4.5	1.1
		2年	76.8	20.8	2.4	0
		3年	79.9	18.6	1.0	0.5

質問 NO1“学校と地域が一緒に行う防災訓練の必要性”、NO9“地域防災訓練などの防災教育の重要性”では、全学年と住民ともに選択肢「大いに」が7割を超えている。このことから、**本教育実践は学校と地域が合同で防災教育を行うこの必要性と重要性を確かめることができる。**

また、NO2“中学生主導の地域防災訓練が地域に貢献”、NO7“地域と学校が一緒に活動・取組ことで地域の活性化”、NO8“中学生主導の地域防災訓練は住民と中学生の関わりを深化”、3項目は選択肢「大いに」と「まあまあ」を加えると、いずれも9割を超えている。このことは、**本教育実践は中学生の地域貢献と地域の活性化につながり、住民との関わりを深める効果と成果を得られることが確かめられる。**

さらに、本教育実践が生徒の心的影響とその効果を問う項目 NO11～NO17 についてみてみると、いずれの項目においても選択肢「大いに」と「まあまあ」を加えると、いずれも9割を超えている。このことは、本教育実践が生徒に NO11「**自分の力が人のために役になって嬉しい**」、NO12「**これからも人のために役に立ちたい**」、NO13「**人が人を助けることは大切**」、NO14「**自分は人を助け、支え合いたい**」、NO15「**自分にできることを探し続け、チャレンジしたい**」、NO16「**どんな苦難にも立ち向かい、苦難を乗り越える努力をしたい**」、NO17「**自分の夢や希望を持ち続け、頑張りたい**」いずれにおいても**良好な心的影響をもたらす成果と効果があり、道徳心と自己肯定感・効力感を高めることが確かめられる。**

次ぎに、各項目間の相関分析を行い、相関値が 0.4～0.7 の“相関あり”と 0.7 以上の“強い相関あり”を検証してみる。以下に示した相関表では、0.7 以上の強い相関を黄色、0.6 以上で 0.7 未満をピンク、0.5 以上で 0.6 未満を水色、0.4 以上で 0.5 未満を薄緑で、色分けして表示している。

H27 地域防災訓練アンケート調査・相関分析【第1学年】

	NO1	NO2	NO3	NO4	NO5	NO6	NO7	NO8	NO9	NO10	NO11	NO12	NO13	NO14	NO15	NO16	NO17
NO1		0.49	0.48	0.3	0.58	0.55	0.49	0.46	0.522	0.41	0.47	0.41	0.43	0.44	0.41	0.44	0.4
NO2			0.38	0.28	0.38	0.48	0.61	0.52	0.422	0.36	0.52	0.51	0.53	0.49	0.47	0.49	0.43
NO3				0.42	0.5	0.65	0.45	0.5	0.485	0.37	0.44	0.49	0.48	0.52	0.45	0.49	0.5
NO4					0.32	0.39	0.34	0.36	0.35	0.29	0.27	0.36	0.36	0.32	0.25	0.23	0.18
NO5						0.56	0.44	0.51	0.487	0.36	0.4	0.39	0.32	0.34	0.37	0.4	0.34
NO6							0.61	0.51	0.557	0.39	0.49	0.55	0.51	0.47	0.46	0.51	0.5
NO7								0.56	0.503	0.37	0.53	0.56	0.53	0.41	0.48	0.5	0.47
NO8									0.503	0.5	0.55	0.54	0.46	0.52	0.49	0.51	0.47
NO9										0.57	0.43	0.5	0.48	0.52	0.4	0.43	0.43
NO10											0.41	0.39	0.43	0.45	0.35	0.32	0.4
NO11												0.74	0.55	0.54	0.54	0.6	0.58
NO12													0.71	0.69	0.55	0.64	0.64
NO13														0.65	0.53	0.54	0.69
NO14															0.52	0.57	0.67
NO15																0.67	0.54
NO16																	0.65
NO17																	

H27 地域防災訓練アンケート調査・相関分析【第2学年】

	NO1	NO2	NO3	NO4	NO5	NO6	NO7	NO8	NO9	NO10	NO11	NO12	NO13	NO14	NO15	NO16	NO17
NO1		0.533	0.53	0.39	0.353	0.69	0.475	0.448	0.48	0.346	0.481	0.54	0.365	0.413	0.42	0.62	0.309
NO2			0.424	0.33	0.372	0.52	0.318	0.412	0.48	0.192	0.499	0.5	0.244	0.271	0.34	0.48	0.188
NO3				0.398	0.293	0.55	0.541	0.456	0.49	0.35	0.529	0.48	0.357	0.384	0.49	0.55	0.35
NO4					0.181	0.35	0.292	0.263	0.38	0.191	0.417	0.32	0.419	0.314	0.15	0.4	0.262
NO5						0.49	0.252	0.271	0.33	0.287	0.313	0.29	0.235	0.14	0.23	0.19	0.248
NO6							0.415	0.378	0.55	0.44	0.55	0.47	0.332	0.348	0.38	0.54	0.374
NO7								0.622	0.35	0.334	0.4	0.45	0.437	0.355	0.54	0.51	0.395
NO8									0.46	0.37	0.402	0.46	0.395	0.418	0.51	0.54	0.454
NO9										0.404	0.495	0.46	0.368	0.371	0.34	0.43	0.422
NO10											0.249	0.37	0.396	0.387	0.35	0.36	0.401
NO11												0.68	0.5	0.365	0.41	0.52	0.327
NO12													0.632	0.473	0.5	0.52	0.323
NO13														0.538	0.37	0.38	0.452
NO14															0.46	0.48	0.556
NO15																0.67	0.496
NO16																	0.587
NO17																	

H27 地域防災訓練アンケート調査・相関分析【第3学年】

	NO1	NO2	NO3	NO4	NO5	NO6	NO7	NO8	NO9	NO10	NO11	NO12	NO13	NO14	NO15	NO16	NO17
NO1		0.53	0.553	0.5	0.476	0.522	0.369	0.43	0.38	0.417	0.55	0.495	0.6	0.56	0.59	0.5	0.6
NO2			0.575	0.49	0.429	0.552	0.305	0.44	0.39	0.392	0.51	0.451	0.59	0.52	0.55	0.44	0.59
NO3				0.48	0.576	0.551	0.423	0.58	0.47	0.389	0.61	0.563	0.51	0.62	0.62	0.57	0.64
NO4					0.393	0.467	0.298	0.4	0.29	0.369	0.48	0.446	0.52	0.41	0.43	0.28	0.47
NO5						0.534	0.391	0.55	0.37	0.463	0.46	0.474	0.39	0.42	0.48	0.51	0.55
NO6		0.53					0.417	0.54	0.49	0.478	0.52	0.639	0.63	0.67	0.55	0.62	0.63
NO7								0.57	0.34	0.289	0.31	0.281	0.29	0.33	0.31	0.33	0.38
NO8									0.46	0.512	0.55	0.548	0.52	0.51	0.53	0.59	0.6
NO9										0.234	0.44	0.458	0.41	0.43	0.39	0.51	0.39
NO10											0.57	0.585	0.58	0.56	0.6	0.57	0.58
NO11												0.775	0.66	0.71	0.69	0.64	0.66
NO12													0.75	0.75	0.68	0.69	0.67
NO13														0.71	0.63	0.57	0.69
NO14															0.68	0.67	0.68
NO15																0.76	0.68
NO16																	0.69
NO17																	

H27 地域防災訓練アンケート調査・相関分析【地域住民】

	NO1	NO2	NO3	NO4	NO5	NO6	NO7	NO8	NO9	NO10	NO11	NO12	NO13	NO14	NO15	NO16
NO1		0.81	0.67	0.06	-0	0.12	0.46	0.57	0.67	0.56	0.335	0.62	0.38	0.42	0.43	0.501
NO2			0.5	-0	0.12	0.12	0.46	0.42	0.5	0.56	0.335	0.45	0.31	0.42	0.31	0.373
NO3				0.12	0.25	0.24	0.32	0.45	0.39	0.63	0.261	0.34	0.31	0.28	0.51	0.481
NO4					0.17	0.4	0.32	0.5	0.27	0.4	0.443	0.5	0.58	0.43	0.56	0.35
NO5						0.6	0.28	0.09	0.02	0.266	-0.06	0	0.17	-0.1	0.05	0.029
NO6							0.35	0.29	0.04	0.325	0.093	0.19	0.46	0.3	0.25	0.084
NO7								0.73	0.54	0.459	0.362	0.5	0.72	0.6	0.42	0.364
NO8									0.59	0.565	0.583	0.66	0.6	0.5	0.44	0.64
NO9										0.525	0.671	0.86	0.8	0.57	0.51	0.595
NO10											0.492	0.46	0.58	0.52	0.57	0.611
NO11												0.62	0.65	0.5	0.34	0.399
NO12													0.7	0.45	0.42	0.506
NO13														0.71	0.77	0.543
NO14															0.67	0.441
NO15																0.633
NO16																

強い相関を示した項目数が多い、第３学年を見てみると、NO14「**自分は人を助け、支え合いたい**」が、NO11「**自分の力が人のために役になって嬉しい**」、NO12「**これからも人のために役に立ちたい**」、NO13「**人が人を助けることは大切**」、と強い相関が検出された。このことから、“**人を助け支え合うことが、人のために役に立つ大切なことで自らの喜びにつながること**”という認識が確かめられる。１・２年生においても、0.4 以上の相関があることから、強い相関ではないもののその傾向が見られる。このため、本教育実践が道徳的心情をも育むことにつながることを確認できる。

一方、地域住民については、生徒アンケートの項目順と一部内容を変えており、生徒用の番号 NO が異なっている。住民対象の調査で 0.7 以上の強い相関を示した NO13「生徒の班活動の内容や成果・課題の発表が有意義である」は、NO7「中学生主導の地域防災訓練は、毎年実施する必要がある」、NO9「地域と学校が一緒の活動・取組が地域活性化につながる」、NO12「地域と学校が一緒に取り組む活動が、増えることが良い」、NO14「生徒の防災学習のプレゼン発表で、学び、知ることができた」、NO15「炊き出し訓練は必要である」の５項目間である。このことから、地域住民は“**生徒の班活動の内容と成果等を知り、中学生主導の地域防災訓練が必要なことであると理解し、その防災教育と実践が効果的で地域の活性化をも導くもの**“と認識している。

５、おわりに

東北地方にはこれまでＭ７クラスの宮城県沖地震が平均で約３７年周期に発生していたものの、2011 年３月 11 日の東日本大震災はＭ９の誰もが経験したことがない、想定外の未曾有の大惨事を発生させた。何度も宮城県沖地震を経験している仙台市立の学校では、全ての校舎の耐震化工事が完了し、避難訓練等の安全教育が続けられていた。しかし大震災後、全ての生徒が自らの命を自ら守り、生き抜く力の糧を学ぶためには、これまで行ってきた教育では限界を感じざるを得ず、大震災で得た教訓を生かした新たな防災教育の創出を図り、その実践を試みることが必要かつ重要である。

そこで本教育実践では以下を目指す。

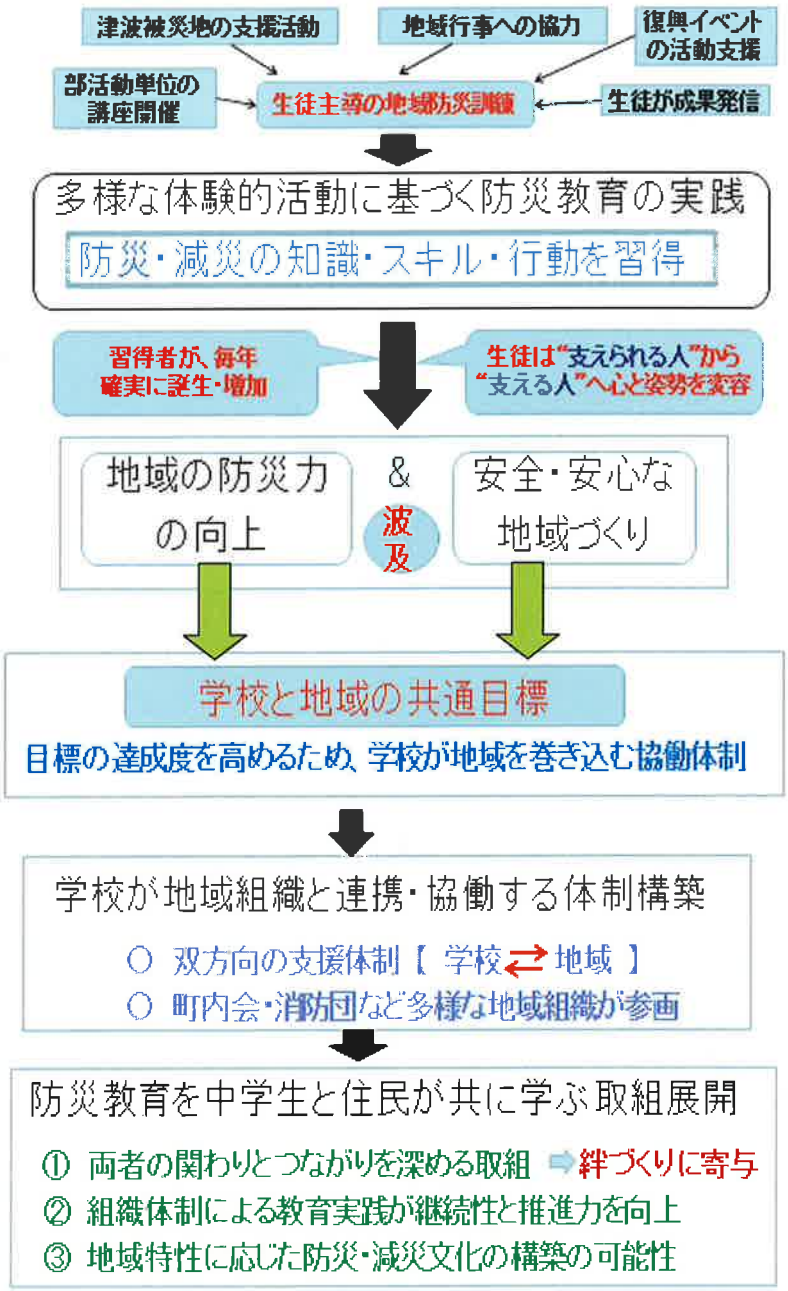
①防災・減災の知識とスキル、そして行動と防災対応能力を育む。

→　地域の防災意識と防災力を向上させ、安全・安心な地域づくりを担う。

②“支えられる人”から“支える人、支え合う人”へ、心と姿勢の変容を図る。

→　生徒自らが実行役として防災・減災に取り組み、豊かな心と人間性を培う。

③大震災がもたらした現実を知り、教訓を学び継承する。　→　主体的に復興支援に取り組み、持続可能な社会づくりを担う人材を育む。



以上、本校の防災教育では保護者や地域を組織的に巻き込む仕組みを構築しつつ、学校・地域支援組織の設立を進めている。上記の図に示したように、中学生が主導する地域防災訓練をメインプランに、多様な体験的活動に基づく防災教育の実践を創出している。これらの実践により、生徒は防災や減災の知識・スキル・行動と防災対応能力を習得する。毎年、習得者が地域に増員され、確実に住民の防災意識と地域防災力は高まる。また、実践を通じて生徒は“支えられる人”から“支える人”へ心と姿勢を変容し、豊かな人間性を育むことができる。そして、実践が継続することで、地域の様々な年代の人々と関わり、繋がり、延いては絆づくりに寄与し、心が通い合う安全・安心な地域づくりに波及し、持続可能な地域コミュニティの形成が期待できる。

本校の実践は汎用性、継続性、有効性、発展性において、防災教育の実践として評価できるものと考える。しかし、今後、実践を継続しながら、さらに分析と検証を重ねて改善と改良を行っていく。そして、現在から未来に向け、本実践による防災教育を継続することは、地域防災力が偉大なる力(共助という、地域の人と人が結びつく強靭な絆を司るパワー)に進化するものと確信している。